

介護老人保健施設しおん

症 例 概 要 ご利用者 80代 女性 （要介護4）

利用期間 : 2024年5月～現在

現病 : 慢性硬膜下血腫

既往 : 誤嚥性肺炎、尿路感染症、廃用症候群、腸骨骨折、脊柱管狭窄症、骨粗鬆症 右大腿骨骨折、左上腕骨骨折、左肩骨折、腰椎圧迫骨折

経過 : 東京出身。夫の転勤で昭和44年に石巻へ移住し長女、次女を授かる。二人とも東京在住の為、石巻に来るのは年数回のみ。夫と二人暮らしで家事全般を行っていた。平成27年頃から転倒を繰り返していた。夫は運転、買い物、通院等を支援していたが、高齢の為これ以上は難しいと思っていた。2024年2月自宅にて頭痛と言葉が上手く出ない症状があり救急搬送。硬膜下血腫の診断があり投薬で治療。3月リハビリ目的で健育会病院に転院する。病棟内コロナ感染者が出た事もあり、リハビリが予定通り進まずに経過し、5月に当施設に入所となる。

内 容

「シルバーカーで歩行トイレに行けるようになれば自宅に帰りたい」との希望でリハビリ目的で入所しました。ある日、職員との雑談のなかで「昔はよくお父さんと外食に行ってたんだ、入院するようになってからは一緒にご飯食べる事も無くなっちゃったけどね」と寂しそうに話されました。そこで、楽しかった頃を思い出して在宅復帰への希望に繋がればと思い夫婦での外食を旦那さんに提案したところ「是非お願いします、前みたく私の運転で家内を助手席に乗せて行ってみたい」と前向きな返事でした。

通常は施設の車で職員が運転して行きますが、旦那さんの運転に職員が同乗して行く形で無事に外食する事が出来ました。ただ、帰りは本人が疲れて立ち上がりが出来ずに職員の介助がないと難しいこともわかりました。

しかし、この成功体験がご本人、旦那さん、娘さんに新たな希望をもたらしました。年末年始に東京の娘さんが帰ってくるので自宅に外泊をする事です。みんなでやると決め、他職種で連携し担当リハや相談員は自宅で使う車椅子の選定や旦那さんへの移乗方法の指導、トイレ誘導、言語聴覚士からは食形態や義歯の説明など旦那さんと娘さんのご協力のもと、沢山の課題をクリアして、娘さん手作りの御馳走で新年を祝う事が出来ました。しかし、在宅復帰が見えてきたと同時に新たな課題が明確になりました。それはトイレ誘導です。立位保持が困難なときがあり、旦那さんと娘さんがいたから介助出来たものの旦那さんと二人きりでは無理かもしれないという事です。今後のアプローチについて検討し、ユニットでは引き続き立ち上がり練習、リハビリでは歩行器や、平行棒、段差昇降、立位訓練、移乗動作確

認等の下肢筋力強化を重点的に行い、トイレ誘導がスムーズに行えるよう、ご本人と旦那さんへのレクチャーも踏まえなが取り組む事になりました。娘さんには安心を、旦那さんには「いつか、また二人で暮らしたい。そして自分の運転で出掛けたい」という希望を叶えてもらうため、努力と協力を惜しまないご本人と旦那さん、そしてプロフェッショナルな他職種がour teamとなり今日も頑張っています。